

## 未活用労働の把握に関するモニター研究の概要

### 1 モニター研究の実施スケジュール

- ・ 1 月 13 日 対象モニターの決定
- ・ 1 月 25 日～31 日 1 月の就業状態等を様式 A（現行の基礎調査票及び特定調査票ベース）を用いて調査
- ・ 2 月 22 日～28 日 2 月の就業状態等を様式 B（様式 A に新定義失業者等を把握するための変更を行った様式。別紙 1 参照。）を用いて調査
- ・ 3 月初旬 様式 A の回答結果を受領
- ・ 3 月中旬 様式 B の回答結果を受領

モニター研究は web 上のアンケートで実施するため、紙の調査票と同様の回答の仕方（回答様式を基礎調査票ベースと特定調査票ベースに分け、それぞれの回答様式上の記入（誘導）説明に従って回答していく方式）は、回答者の負担増や混乱を招いて検証に必要な回答が得られなくなる可能性があることから、基礎調査票ベースと特定調査票ベースに分けずに一連の回答様式とし、回答内容に応じて次に記入する調査事項が自動的に画面に表示される方式で実施

### 2 回答結果の検証について

様式 A 及び様式 B の回答結果を比較し、主に以下の事項について検証。

ただし、モニター研究と労働力調査では調査手法や標本設計が異なることから、詳細な分析については準備調査において実施。

- (1) 新旧（現行）定義の失業率をひとつの様式で把握することの妥当性についての検証  
様式 A 及び様式 B で作成した旧（現行）定義の失業率の差異を検証
- (2) 新旧（現行）定義の失業率の差異の検証  
求職活動期間を直近 1 か月に変更することによる失業率の差異について検証
- (3) 就業可能期間を 2 週間延長することによる影響の検証  
就業可能となる期間を先へ 2 週間延長することによる失業率の差異について検証
- (4) 時間関連不完全就業者、潜在的労働力人口及び未活用労働に関する指標（LU2～LU4）を試算し、規模感・大小関係を確認

### 3 モニター研究で作成する主な結果表のイメージ

別紙 2 参照。

なお、結果表作成にあたっては、比較を容易に行えるように、様式 A と様式 B の回答者数の違いを補正した表を別途作成する。

## モニター研究 回答の流れ

第1回研究会配布資料から差替え資料  
(10月22日)への変更点は、赤字で記載

差替え資料(10月22日)からの変更点は、  
青字で記載

凡例  
基：基礎調査票の設問  
特：特定調査票の設問

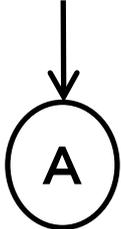
- 基① 氏名及び男女の別
- 基② 世帯主との続柄
- 基③ 出生の年月
- 基④ 配偶の関係

基⑤(一部変更)

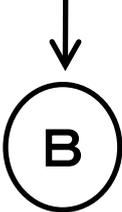
<p>⑤ 月末1週間(ただし12月は20~26日)に仕事を したかどうかの別</p> <p>・月末1週間に少しでも仕事をしたかどうかについて 記入してください ・仕事とは 収入をとまなう仕事をいい 自家営業(個人経営の商店や農 家など)の手伝いや内職も含めます (「基礎調査票の記入のしかた」参照)</p>	<p>(裏面の図欄へ) (記入おわり)</p>
---	-------------------------

現行定義の非労働力人口  
に該当する者について、新  
定義による失業率等を把握  
する設問 (C) へ誘導

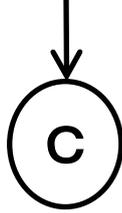
「おもに仕事」、「通学のかたわらに仕事」、「家事  
などのかたわらに仕事」又は  
「仕事を休んでいた」



「仕事を探していた」



「通学」、「家事」又は  
「その他 (高年齢者など)」



A

変更なし

変更なし

- 基⑧ 月末1週間に仕事をした日数と時間
- 基⑨ 当月の1か月間に仕事をした日数
- 基⑩ 従業上の地位
- 基⑪ 勤め先における呼称
- 基⑫ 勤め先・業主などの経営組織・名称及び事業の内容
- 基⑬ 本人の仕事の内容
- 基⑭ 勤め先・業主などの企業全体の従業者数

特A1 この1週間に仕事をした時間が35時間未満の人は その理由を記入してください  
特A2 仕事時間についての希望はありますか

今の仕事に追加して仕事をすることが可能ですか	はい	いいえ
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

追加  
時間関連不完全就業者を把握するため、設問を追加

特A3 今の仕事にはいつついたのですか  
特A4 どうして今の雇用形態についているのですか  
特A5 転職などを希望していますか

特A6 今の仕事の前に何か仕事をしていましたか

「今はやめている」

「今もしている」又は  
「したことがない」

特D1 前にしていた仕事はいつやめたのですか  
特D2 前にしていた仕事は 勤めていたのですか 自分で事業を運営していたのですか  
特D3 前にしていた仕事の事業の内容  
特D4 前にしていた仕事の内容  
特D5 前にしていた仕事の勤め先・業主などの企業全体の従業者数  
特D6 前にしていた仕事をどうしてやめたのですか

特E1 教育  
特E2 この1年間のすべての仕事からの収入(税込み)はどのくらいですか

回答終了

B

変更なし  
変更なし

基⑥ 探している仕事について  
基⑦ 仕事を探し始めた理由

特B1 仕事を探したり開業の準備をするためにどのような方法をとっていますか  
特B2 仕事を探したり開業の準備を始めてからの期間は どのくらいになりますか  
特B3 この1か月に仕事を探したり 開業の準備をしましたか  
特B4 探したり開業の準備をしている仕事はどのような仕事ですか  
特B5 仕事につけないのは どうしてですか

特B6 今までに仕事をしたことがありますか

{ 「ある」 }

{ 「ない」 }

特D1 前にしていた仕事はいつやめたのですか  
特D2 前にしていた仕事は 勤めていたのですか  
自分で事業を営んでいたのですか  
特D3 前にしていた仕事の事業の内容  
特D4 前にしていた仕事の内容  
特D5 前にしていた仕事の勤め先・業主など  
の企業全体の従業者数  
特D6 前にしていた仕事をどうしてやめたのですか

特E1 教育  
特E2 この1年間のすべての仕事からの収入(税込み)はどのくらいですか

回答終了

C

特C1、特C4  
及び特C5  
の順番を  
入替え

特C4			
C4 この1年間に 仕事を探したり 開業の準備を しましたか	この1か月に した <input type="radio"/>	この1か月には しなかったが この1年間に した <input type="radio"/>	この1年間には 全くしなかつた <input type="radio"/>

特C5bは削除

特C5 (一部変更)				
C5 今仕事があれば すぐつくことが できますか	すぐつく ことができます <input type="radio"/>	すぐではないが 3週間以内に つくことができ <input type="radio"/>	すぐではないが 3週間より後に つくことができ <input type="radio"/>	つくことが できない ・わからない <input type="radio"/>

失業者の新定義のうち、就業可能期間が2週間延長となる部分を把握するため設問を一部変更

特C4で「この1か月にした」かつ、  
特C5で「すぐつくことができる」又は「すぐではないが3週間以内につくことができ  
る」と回答した者は基⑥へ。それ以外の者は特C1へ。

基⑥ 探している仕事について 基⑦ 仕事を探し始めた理由
---------------------------------

特C1へ
------

特B1 仕事を探したり開業の準備をするためにどのような方法をとっていますか	特B2 仕事を探したり開業の準備を始めてからの期間は どのくらいになりますか	特B3 <del>この1か月に仕事を探したり開業の準備をしましたか</del>	特B3は削除
特B4 探したり開業の準備をしている仕事はどのような仕事ですか	特B5 仕事につけないのは どうしてですか		

特B6 今までに仕事をしたことがありますか
-----------------------

「ある」

「ない」

特D1 前にしていた仕事はいつやめたのですか	特D2 前にしていた仕事は 勤めていたのですか 自分で事業を営んでいたのですか
特D3 前にしていた仕事の事業の内容	特D4 前にしていた仕事の内容
特D5 前にしていた仕事の勤め先・業主など の企業全体の従業者数	特D6 前にしていた仕事をどうしてやめたのですか

特E1 教育	特E2 この1年間のすべての仕事からの収入(税込み)はどのくらいですか
--------	-------------------------------------

回答終了

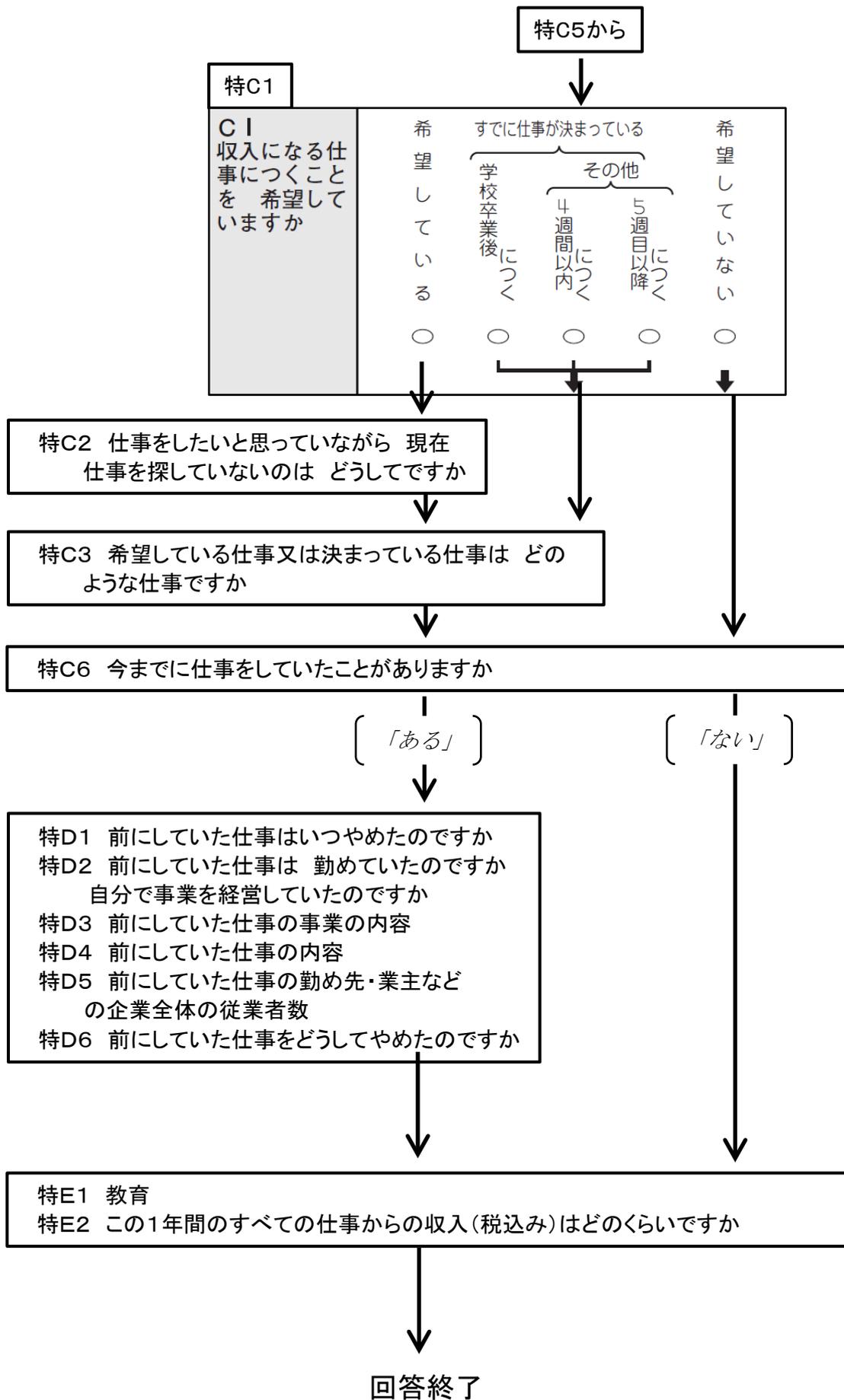


表 1

		様式B(実数)					様式A(実数)				様式B(失業率)			様式A(失業率)
モニター総数	就業者	失業者			新定義の非労働力人口(延長あり)	新定義の非労働力人口(延長なし)	モニター総数	就業者	旧失業者(現行)定義の	旧非労働力人口(現行)定義の	失業率			旧の失業率(現行)定義
		旧の失業者(現行)定義	新定義の失業者								旧の失業率(現行)定義	新定義の失業率		
			(延長あり)	2週間延長に伴う増加分								(延長なし)	(延長あり)	
性別 年齢階級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新定義の失業者(延長あり): 新定義のうち、就業可能となる期間を2週間延長する場合の失業者 ⑤に「仕事を探していた」と回答した者【旧(現行)定義の失業者】及び⑤に「通学」「家事」「その他(高齢者など)」と回答し、かつ、⑮に「この1か月にした」と回答し、かつ、⑯に「すぐつくことができる」「すぐではないが3週間以内につくことができる」と回答した者</li> <li>・新定義の失業者(延長なし): 新定義のうち、就業可能となる期間を2週間延長しない場合の失業者 ⑤に「仕事を探していた」と回答した者【旧(現行)定義の失業者】及び⑤に「通学」「家事」「その他(高齢者など)」と回答し、かつ、⑮に「この1か月にした」と回答し、かつ、⑯に「すぐつくことができる」と回答した者</li> <li>・2週間延長に伴う増加分: 「新定義の失業者(延長あり)」から「新定義の失業者(延長なし)」を差し引いた値</li> </ul>													

- 検証事項: ①様式A及び様式Bで作成した旧(現行)定義の失業率を比較  
 ②新旧(現行)定義の失業率の差異の検証  
 ③就業可能期間を2週間延長することによる影響の検証

表 2

6

		様式B										様式A				
モニター総数	就業者	失業者		非労働力人口 (延長なし)	潜在的労働力人口		旧失業率 (現行)定義の	LU1	LU2	LU3	LU4	モニター総数	就業者	旧(現行)定義の失業者	非労働力人口	潜在的労働力人口
		時間関連不完全就業者	新定義の失業者 (延長なし)		旧(現行)定義の失業者	(a)										
性別 年齢階級	<p>・潜在的労働力人口(a): 仕事を探す活動を行い、現に就業可能ではないが、定められた短い期間内に就業可能となる者 【様式B】 ⑮に「この1か月にした」と回答し、かつ、⑯に「すぐではないが3週間以内につくことができる」と回答したモニター</p> <p>・潜在的労働力人口(b): 仕事を探す活動を行わなかったが、就業を希望し、かつ現に就業可能な者 【様式A】 C1に「希望している」と回答し、かつ、C5に「すぐつくことができる」と回答したモニター 【様式B】 ⑮に「この1か月にした」以外に回答し、かつ、C1に「すぐつくことができる」と回答し、かつ、C2に「希望している」と回答したモニター</p>															

検証事項：時間関連不完全就業、潜在的労働力人口及び未活用労働に関する指標の試算及び規模感・大小関係の確認